

World Confederation for Physical Therapy 2015における研究発表

伊藤 渉*

はじめに

平成27年5月1日から平成27年5月4日まで、シンガポールにて開催された世界理学療法学会2015（World Confederation for Physical Therapy 2015：以下、WCPT）に参加した。WCPTは4年に一度開催される理学療法の学術大会である。平成27年度重点プロジェクト事業（海外派遣研究員旅費）の助成を受け、WCPTにて大学院での研究成果の一部を発表する機会を得たので概要を報告する。

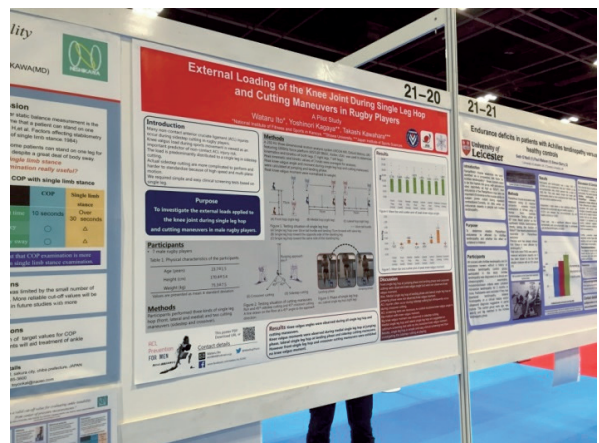


ポスター発表の会場の様子

研究発表の概要

WCPTでの演題はポスター発表として採択された。ポスター発表は、学会2日目に行われ、45分間の質疑応答の時間が与えられた。「External loading of the knee joint during single leg hop and cutting maneuvers in rugby players」というタイトルで発表した。内容は「男子ラグビー選手における片脚ホップとカッティング動作時の膝関節モーメント」について、3次元動作解析を用いて非接触型膝前十字靭帯（ACL）損傷のリスクと考えられる膝外反角度と膝外反モーメントを算出し、その大きさについて検討した。各方向への片脚ホップ動作、カッティング動作において膝外反角度は発生していたが、膝外反モーメントは内方ホップ、外方ホップ、サイドステップカッティングにのみ発生していることが分かった。カッティング動作でのACL損傷のスクリーニングテストとしてもリスクである膝外反モーメントが発生する動作を評価することが重要であるということが示唆された。

本研究では先行研究にない新しい動作課題を用



ポスター発表の様子

いたため、ポスターでの表現で不十分と考えられた部分はタブレット端末に動画を用意し、他国の研究者へ理解してもらえるよう準備した。本学会の参加者である理学療法士が臨床での評価に用いる動作における膝外反モーメントを示した研究であったため、他国の研究者からも良い反応をもらうことができた。

おわりに

本学会では様々な分野、領域に渡る理学療法について、一堂に会した学会であるため、スポーツ

* 鹿屋体育大学 大学院体育学研究科 博士後期課程3年

に限らず, 他の分野の研究者と議論を交わすことができた. 他国の研究者から意見をもらい, 動作課題の信頼性等について議論を深めることができ, 国際誌投稿へ向けて研究の質を向上させる貴重な経験を得ることができた.

本学会への参加および発表にご理解とご支援をいただいたことに, 深く感謝する.